

【エクアドル内政・外交：2009年3月】

1. 概要

- 3月10日 選挙運動開始
- 13日 FARCとの武力衝突
- 15日 チャールズ英国皇太子同妃両殿下、当国訪問
- 18日 ファルコニ外相、アルゼンチン訪問
- 19日 空軍軍用機の墜落事故
- 23日 コレア大統領、パラグアイ訪問
- 25日 空軍軍用機の墜落事故
- 30日 社会保障改正法発効
- 31日 ファルコニ外相、カタール訪問

2. 内政

(1)総選挙：選挙運動開始

10日、来る4月26日に実施される総選挙に向け公式に選挙運動が開始された。国家選挙審議会(CNE)は、選挙運動期間を3月10日～4月23日迄の45日間としている。

(2)選挙違反

各選挙候補者は国家選挙審議会(CNE)の承認無しに、メディアでの選挙運動が原則禁止とされている。6日、国家選挙審議会(CNE)は、ビートルズ「Hey Jude」のパロディー曲を用いたCMによりコレア=モレノ大統領・副大統領選挙候補者が選挙運動を行っているとし、選挙違反と判定し650ドルの罰金を同候補者に請求する旨決議した。右決議に対し、コレア大統領は同CMは選挙運動ではないとし罰金を支払わない旨述べ抗議している。9日、同審議会は同議決の延期を決定した。

(3)社会保障改正法

10日、立法・査察委員会は社会保障改正法(Ley reformatoria a la ley de seguridad social)、軍隊社会保障改正法(Ley reformatoria a la ley de seguridad social de la fuerzas armadas)及び国家警察社会保障改正法(Ley reformatoria a la ley de seguridad social de la policia nacional)を賛成票43、反対票15を以て可決した。30日、同改正法は官報に掲載され発効した。

(4)空軍軍用機の墜落事故

(a)19日午後5時頃、キト市ゴンサレス・スアレス地区所在のマンション最上階にエクアドル空軍小型飛行機 ビーチクラフト AEE-101 が衝突し墜落した。同事故による死者は7名(軍用機の搭乗者である、軍人3名及び同乗していた家族2名、墜落したマンションの住人2名)、負傷者は1名(事故に巻き込まれた一般市民)

(b)25日午前10時頃、オレジャナ県アニャンゴ地区において、エクアドル空軍の軍用機MK-89が墜落した。事故により搭乗パイロット1名及び救助隊員が救出中に地上に落下し死亡した。

(5)FARCの武力衝突

13日、コロンビア国境付近スクンビオス県トリアングロ・デ・コエンビ地区において、パトロール中のエクアドル国軍とFARC前線第48部隊構成員4名が遭遇し銃撃戦となり、FARC側1名が死亡、1名が負傷したが他の2名は共に逃走した。

(6) トウングラウア火山の活動

5日、トウングラウア火山の活動が活発化し、チンボラソ県は近隣地区の警告度を引き上げた。トウングラウア火山は数日前から火山上空約6kmに及ぶ大量の火山灰を放出していることが確認され、周辺地域において降灰による被害が拡大している。チンボラソ県では近隣地区の警告度を黄色(3段階中の1段階目)から1段階上の橙色に引き上げると共に、同火山が位置するトウングラウア県及びチンボラソ県の非常事態対策委員会は降灰が確認されている地区の住民に対し注意喚起を開始した。

3. 外交

(1) 対米関係

3日、ホッジス(Heather M. Hodges)駐エクアドル米国大使は、米軍マンタ基地撤退につき、「我々は航空機発着のためマンタ基地を利用できたことに感謝している。エクアドル政府がマンタからの撤退要求に対し、我々はそれに応える。」と述べ、エクアドルが約10年間に亘り米軍沿岸警備航空機の発着を承認したことに対し謝意を表明した。

また同大使は「現在のところ、米軍が他国に駐屯するかどうか解らない。本年末、エクアドルから撤退する」と述べた。

(2) 対パラグアイ関係

23日及び24日、コレア大統領はパラグアイを公式訪問した。同大統領には、ファルコニ外相等が同行した。

23日、コレア大統領は、ルゴ・パラグアイ大統領と会談した。両大統領は両国関心分野の4協定に署名した。これら4協定は、環境、移民、犯罪人引き渡し及び文化財返還に関する協定である。また、両大統領は、互いに叙勲を授与しあつた。

コレア大統領は、国会視察、最高裁判所視察、アスンシオン国立大学における講演、パラグアイ在住エクアドル人コミュニティとの懇談、エンカルナシオン視察等も実施した。

(3) 対アルゼンチン関係

18日、ファルコニ外相は、アルゼンチンを公式訪問し、第5回二国間政治・経済統合常設委員会会合に先駆け、タイアナ亜外相と二国間関心テーマにつき協議した。両外相は、文化、教育、国際協力、経済・貿易、ITTプロジェクト等につき協議した。

両外相は、第5回二国間政治・経済統合常設委員会会合に出席し、両国は、人権に基づく民主主義的価値の擁護、テロ及び麻薬密輸との闘い及び社会公正を伴った持続可能な発展を推進しながらの貧困・不平等・社会参画のための解決策の模索を約した。

(4) 対トリニダード・トバゴ関係

20日、コレア大統領は、当国を訪問したトリニダード・トバゴのマニング首相と会談した。マニング首相は、コレア大統領を、来る4月17日～19日、トリニダード・トバゴのポート・オブ・スペインで開催予定の第5回米州首脳会合に正式に招待した。

(5) 対イラン関係

4日、モレノ副大統領は当国訪問中のハミ(Hamid Chitchian)イラン・エネルギー大臣を代表団団長とするイラン代表団と会談した。同代表団にはエネルギー分野、通商分野、金融分野に亘る12名の役人が同行している。

今次会談において、水力発電所建設に関する三案件、及びイラン輸出開発銀行から中央銀行への1億2千万ドルの融資協定につき話し合われた。

当国政府は客年12月コレア大統領によるイラン公式訪問の際、鉱山、石油、電力分野等

11 分野に亘る技術協力協定を締結し、外交関係を樹立している。

(6) 対英国関係

15 日、モレノ副大統領は、チャールズ・ダーウィン生誕 200 周年及び「種の起源」発行 150 周年を記念して当国を訪問中のチャールズ英国皇太子同妃両殿下と大統領府において会談した。

上記会談では、環境保護や気候変動に関するテーマが取り上げられた。モレノ副大統領は、チャールズ皇太子に対し、ITT プロジェクトにつき説明した。ファルコニ外相は、ITT プロジェクトへの英国政府の公式支持表明に関し、チャールズ皇太子に謝意を述べた。チャールズ皇太子は、ITT プロジェクトは斬新な提唱であるとし、関心を示した。

15 日午後～17 日に亘り、チャールズ皇太子同妃両殿下はガラパゴス諸島を訪問し、チャールズ・ダーウィン研究所等を視察した。両殿下には、アギニャガ(Marcela Aguinaga)環境大臣が同行した。

(7) 第 2 回アラブ・南米諸国首脳会議

31 日、ファルコニ外相は、エクアドル政府代表及びコリア大統領代理として、カタールのドーハにて開催された第 2 回アラブ・南米諸国首脳会議に出席した。

※以上は、当地新聞情報をつとまとめたものです。